

教師の被援助志向性と援助提供志向性の関連

金 沢 直 輝

現在の学校現場において、教師は直面した問題に対して「チーム」としての連携が求められているが、これまでの教師の援助研究では、主に援助要請に焦点が当てられて検討が進められてきており、相互の援助関係の視点で検討されてこなかった。本研究では、教師の相互の援助関係についての認知的な側面の関連を検討するため、援助提供に関する認知的側面を「援助提供志向性」として定義し、援助提供志向性尺度を作成し、被援助志向性との関連および、自己および他者の内面への意識との関連を検討する。さらに、教師の援助要請行動および援助提供行動のプロセスの一端を把握するために、複数の具体的場面を想定して、援助要請意図および援助提供意図と被援助志向性および援助提供志向性の関連を検討する。

A 県内の小・中・高等学校、中高一貫校教師309名（うち分析286名）にデモグラフィック変数、被援助志向性尺度、作成した援助提供志向性尺度、視点別意識尺度、教師が直面する具体的場面における援助要請意図とその方略に関する自由記述、および援助提供意図とその理由に関する自由記述を含む項目から構成された質問紙を配布した。作成した援助提供志向性尺度に探索的因子分析を行い、また、自己および他者の内面への意識、被援助志向性、援助提供志向性の関連に関するモデルを作成し、パス解析を行った。さらに援助要請意図及び援助提供意図を外変数として重回帰分析を行い、自由記述の各回答の共起ネットワーク図を作成した。

探索的因子分析の結果、援助提供志向性尺度は「援助提供に対する効力感」および「他者に対する協力志向」因子からなる2因子で構成されていた。また、パス解析の結果、自己あるいは他者の内面への意識が、被援助志向性に影響し、援助提供志向性に影響していた。また、自己あるいは他者の内面への意識が、援助提供志向性に影響し、被援助志向性に影響していた。また、重回帰分析の結果、各場面に共通して、援助要請意図に他場面の援助要請意図が、援助提供意図に他場面の援助提供意図が関連していた。共起ネットワーク図から、各場面で共通する援助要請方略および援助提供理由や、各場面独自の援助要請方略および援助提供理由が見られた。

作成した援助提供志向性尺度は、一定の内的整合性による信頼性が得られたが、さらなる改良の余地があるだろう。また被援助志向性と援助提供志向性は相互的に関連していることが示唆され、教師の援助関係を考える上で、援助提供の視点を取り入れる重要性が示された。また、教師が直面する問題状況によってさまざまに援助要請あるいは援助提供する（しない）ことが示されたことから、教師の援助関係について、教師が直面しうる問題状況を考慮して今後検討していく必要があるだろう。